

# 施策評価シート （評価対象年度：平成30年度）

## 1. 基本的事項

① 施策名〔施策小〕	4 子どもの居場所づくり	② 施策番号	7105
③ まちづくりの方向〔政策(章)〕	1 すべての人が尊ばれ、その個性が発揮できるまち		
④ 基本施策〔施策大(節)〕	4 だれもが、いつでもどこでも学べる生涯学習推進のまちをめざします		
⑤ 基本的方向〔施策中〕	3 青少年、子どもの健全育成		
⑥ 担当部名	⑦ 担当課名		
教育部	教育総務課		

## 2. 施策の現状把握

### [1] 施策の対象・意図

① 施策の対象(誰、何に対して施策を実施するのか)	・市民
② 意図(対象をどのような状態にしたいのか。何を狙っているのか)	・学校プール施設の維持管理を適切に行い、夏休み中の子どもの居場所として一般開放することにより、市民全体の交流の場と機会の創出に寄与できる。
③ 環境(この施策を取り巻く状況はどのような状態なのか、また、国や府の動きはどのような状態で、今後どのように変化していくと考えられるか)	・屋外プールにおける熱中症対策が求められている。 ・経年による施設の老朽化対策が必要

### [2] 施策指標及び推移

施策指標(成果指標)		単位	指標とした理由・考え方
①	利用者数 計算式	人	学校プールの一般開放が夏休みの子どもの居場所づくりに資するため。
②	計算式		
③	計算式		

指標名	単位	H28実績	H29実績	H30実績	R1見込	R2目標	備考
① 利用者数	人	目標値	—	—	—	—	平成28年度は、学校プール一般開放事業の代替となるサンエス温水プールの利用者数
		実績値	1,408	1,788	529	—	
		達成率					
②		目標値					
		実績値					
		達成率					
③		目標値					
		実績値					
		達成率					

### [3] 施策を構成する事務事業

	事務事業名	成果指標				総事業費(千円)			事務事業評価結果		重点化		
		指標名	単位	H29実績	H30実績	R1見込	H29実績	H30実績	R1見込	総合評価		今後の方向性	
1	学校プール一般開放事業	利用者数	人	1,788	529	—	18,621	18,649	—	C	Ⅱ	h31	▲
2													
3													
4													
5													
6													
7													
8													
計	1						18,621	18,649	0				

### 3. 施策の評価

評価の視点	説明・コメント等
①本施策の意図すること(目的)は、上位施策(施策中)の達成にどのよう貢献しますか。 (施策所管課等としての考えをお示ください。)	安全で安心な生涯学習活動の場を提供することによって、青少年、子どもの健全な育成に寄与することができる。
②本施策で設定した指標から何が読み取れますか。 (2〔2〕の表の数値の推移から分析できることをお示ください。)	夏季における子どもたちの活動状態が一定把握可能。
③本施策において市民、団体等との役割分担や市の関与は適切ですか。 (施策所管課等としての考え(理想と現実)をお示ください。)	一般開放期間中は、子どもの見守りの観点から学校、保護者、地域の自発的な協力を得ている。
④施策を構成する事務事業は適正ですか。 (2〔3〕を踏まえ、施策目標に対し事務事業にずれはないか、数は適正かについて考えをお示ください。)	子どもの居場所づくりの一環として、機会の創出に寄与している。
⑤施策を構成する事務事業の中で重点化及び縮小化についてどのように考えますか。 (2〔3〕において、◎、○、▲とした理由をお示ください。)	・プール施設の老朽化対策に要する本事業の費用対効果を考慮する必要あり。 ・夏季の屋外での熱中症対策に関連して、新たな居場所づくり事業との整理統合が必要。

### 4. 一次評価(所管課評価)

	評価(A~D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある
一次評価	C	施設の老朽化対策の必要性と、屋外における子どもの熱中症対策が求められている中で、事業実施の可否を検討する段階に来ている。	

### 5. 改革、改善案

即時的対応 (すぐに取り組む改善案)	子どもの居場所づくり事業として、プールの代替事業の検討
短期的対応 (1、2年のうちに取り組む改善案)	—
中長期的対応 (3~5年をめどに取り組む改善案)	—

### 6. 二次評価(行革・財産活用室評価)

	評価(A~D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある
二次評価	C	子どもの居場所づくりについては、安全安心な事業実施に引き続き取り組まれない。 今後の事業展開については、意向調査の実施や関連する部署との連携など、様々な取組を検討のうえ実施されたい。	